国語3　レポートを書く（「判じ絵」）

3　山田さんは、国語の時間に、言葉に関して興味をもったことをレポートにまとめています。次は、山田さんが書いているレポートの**【下書きの一部】**です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【下書きの一部】

「判じ絵」について

山田　光一

1．はじめに

学校図書館の本で、「判じ絵」というものがあることを知った。「判じ絵」には具体的にどのようなものがあるのか、また、「判じ絵」がいつ生まれ、どのように現代に伝わったのかに興味をもち、詳しく調べることにした。

2．調査方法

学校図書館、地域の図書館、インターネットで情報を集めた。

3．調査結果

■「判じ絵」とは何か

「判じ絵」とは、描かれている絵や記号などが何を意味しているかを解読して楽しむものである。

【図1】ザル

(ア) ただし、【図1】のように、描かれているものと意味しているものとが異なるため、解読する際には、「判じる」こと、つまり、知っていることをもとに「おし量って考える」ことが必要になる。(イ) 言ってみれば、なぞなぞやクイズのようなものなのである。(ウ) また、「判じ絵」の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」だと考えられていることが分かった。(エ) そして、江戸時代に庶民の間に広まる中で様々なものが生まれ、浮世絵ともつながりの深い文化として定着していったという。(オ) さらに明治に時代が移っても、人々の娯楽として親しまれ、現代でも雑誌の挿絵やテレビのクイズ番組などで見ることができる。

■「判じ絵」の解読の面白さ

「判じ絵」の解読の仕方について、具体的に例を挙げて説明する。

【図2】スズメ

【図2】は、鈴の絵に目が描かれている。描かれているものを組み合わせて解読すると、鳥の「スズメ」という意味になる。

【図3】

【図3】は、

一　山田さんは、「1．はじめに」の〰線部「もち」を「もったため」に直すことにしました。その意図として最も適切なものを、次の**1**から**4**までの中から**一つ**選びなさい。

1　「判じ絵」を知ったきっかけを明確にしようとした。
2　「判じ絵」が現代に伝わった理由を明確にしようとした。
3　「判じ絵」に興味をもったきっかけを明確にしようとした。
4　「判じ絵」を調べることにした理由を明確にしようとした。

二　――線部のひらがなを漢字に直し、楷書でていねいに書きなさい。

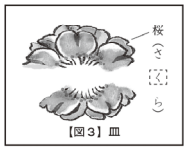
三　山田さんは、「■『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた文章を内容のまとまりで二つに分け、後半のまとまりには分けた内容と合う見出しを付けることにしました。分ける箇所として最も適切なものを、**(ア)** から **(オ)** までの中から**一つ**選びなさい。また、後半のまとまりに付ける見出しを考えて書きなさい。

四　山田さんは、「■『判じ絵』の解読の面白さ」に**【図3】**としてもう一つ具体例を示して、解読の仕方を説明しようとしています。あなたなら、どのように書きますか。次の**〈候補〉**のA、Bから**一つ**選び（どちらの**〈候補〉**を選んでもかまいません。）、「**【図3】**は、」に続けて、**【図2】**の説明の仕方を参考にして書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

〈候補〉

A



【図3】皿

B

【図3】ナス

※次のページの枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

〈候補〉

Ⓐ　Ⓑ　←選んだ〈候補〉の記号を塗りつぶしなさい。

【図3】は、

出題の趣旨

調べたことなどをレポートにまとめて書く場面において、次のことができるかどうかをみる。

- 読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること
- 文脈に即して漢字を正しく書くこと
- 具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること
- 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと

「Ｂ書くこと」の学習においては、「題材の設定、情報の収集、内容の検討」、「構成の検討」、「考えの形成、記述」、「推敲」、「共有」に関する各指導事項が示す資質・能力を身に付けることができるように、意図的・計画的に指導を重ねることが大切である。指導計画の作成に当たっては、書くことに関する資質・能力が確実に育成できるように、実際に文章を書く活動を多くすることが必要である。その際、〔知識及び技能〕の各指導事項との関連を図るとともに、生徒が日常の書く活動に生かすことを意識しながら学習できるように指導することが重要である。

事実やそれを基に考えたことをレポートなどにまとめて書く際には、目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することが大切である。また、読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることが重要である。

本問では、興味をもったことについて調べたり考えたりしたことをレポートにまとめて書く場面を設定した。読み手の立場に立って、語句の用法や叙述の仕方を確かめたり、具体と抽象など情報と情報との関係に注意したりしながら文章を整えるとともに、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にしてレポートの一部分を書くことを求めている。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第１学年〕　思考力、判断力、表現力等　Ｂ　書くこと

ア　本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。

〔第２学年〕　思考力、判断力、表現力等　Ｂ　書くこと

ア　多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く活動。

(参考)

〔第３学年〕　思考力、判断力、表現力等　Ｂ　書くこと

ア　関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く活動。

設問一

趣旨

読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第１学年〕　思考力、判断力、表現力等　Ｂ　書くこと

エ　読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。　《推敲》

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率（%）	正答
3	一	1	1と解答しているもの	3.7	
		2	2と解答しているもの	12.3	
		3	3と解答しているもの	28.7	
		4	4と解答しているもの	54.7	◎
		99	上記以外の解答	0.0	
		0	無解答	0.6	

２．分析結果と課題

○　令和３年度【中学校】国語2一（正答率25.1%）において、「書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くこと」に課題が見られた。これに関連して、本問では、読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることを求めたが、正答率は54.7%であった。今回の結果から、改善の状況が見られるが、引き続き課題があると考えられる。

（参考）

〇関連する問題

問題番号	問題の概要	正答率	解説資料	報告書
R3 2一	意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する	25.1%	pp.18-22	pp.27-31

（参照）

「令和３年度【中学校】報告書」pp.27-31

https://www.nier.go.jp/21chousakekkahoukoku/report/data/21mlang_04.pdf#page=9

○　解答類型１～３の反応率の合計は44.7%である。このように解答した生徒は、読み手の立場に立って、語句の用法や叙述の仕方を確かめて、文章を整えることに課題がある。「もち」を「もったため」に直すことで、「ため」の前後の関係が「原因と結果」の関係になることを十分に理解しておらず、どのようなことを明確にしようとしたのかという推敲の意図を捉えることができなかったものと考えられる。

３．学習指導に当たって

読み手の立場に立ち、叙述の仕方などを確かめて文章を整える

書いた文章を推敲する際には、伝えようとすることが伝わるように、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるように指導することが引き続き大切である。その際、第１学年〔知識及び技能〕の(1)エの「指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めること。」や(2)「ア　原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。」などとの関連を図り、学習した知識を観点として文章を読み返すように指導することが有効である。

例えば、推敲する前と後の文章を比較し、書き換えた理由や意図を説明する学習活動が考えられる。その際、叙述の仕方などを直したことで、伝えようとすることが十分に書き表されているかなどを、読み手の立場に立って確かめることが重要である。

設問二

趣旨

文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第２学年〕　知識及び技能

⑴　言葉の特徴や使い方に関する事項

ウ　第１学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。　《漢字》

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率（%）	正答
3	二	1	「推（し）」と解答しているもの	44.5	◎
		99	上記以外の解答	45.0	
		0	無解答	10.5	

２．分析結果と課題

○　解答類型99について、「押」や「進」、「椎」などという誤答が見られ、その多くが「押」という解答であった。このように解答した生徒は、「推し量る」という言葉になじみがないなど、文脈に即して「おし」の意味を捉えることができず、同じ訓をもつ「押」と書いたものと考えられる。

３．学習指導に当たって

漢字を正しく用いる態度と習慣を養う

漢字の指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を読んだり書いたりすることができるように指導することが大切である。

漢字の書きについては、小学校学習指導要領第２章第１節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字1,026字について、中学校修了までに文や文章の中で使い慣れる必要がある。そのため、文章の中ばかりではなく、「Ａ話すこと・聞くこと」の学習の中や、他教科等の学習や日常の会話の中でも漢字の書きについて意識するよう指導することが大切である。また、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことも大切である。その際、必要に応じて辞書を引くことを習慣付けることが有効である。さらに、１人１台端末等を活用して文字を入力する際にも、漢字がもつ意味に留意して、適切に選択する力を養うことが重要である。

なお、漢字の読みについては、学習指導要領の学年別漢字配当表に示されている漢字1,026字に加え、中学校修了までに学年別漢字配当表以外の常用漢字の大体を読むことを求めている。

設問三

趣旨

具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第２学年〕　知識及び技能

⑵　情報の扱い方に関する事項

ア　意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。

《情報と情報との関係》

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率（%）	正答
3	三	（正答の条件） 次の条件を満たして解答している。 ①　内容のまとまりを分ける箇所として（**ウ**）を選んでいる。 ②　後半のまとまりに付ける見出しを、「『判じ絵』の歴史」、「『判じ絵』の起源と広がり」のように解答している。			
		1	条件①、②を満たして解答しているもの	62.3	◎
		2	条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	11.2	
		3	条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	5.8	
		99	上記以外の解答	18.5	
		0	無解答	2.0	

２．分析結果と課題

○　解答類型２について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

（例）

・（分ける箇所）**ウ**、（見出し）（無解答）

・（分ける箇所）**ウ**、（見出し）「判じ絵」について

・（分ける箇所）**ウ**、（見出し）江戸時代の文化

このように解答した生徒は、「■『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた文章を内容のまとまりで適切に分けることはできているが、（**ウ**）以降の内容に共通する要素を抽出し、見出しを考えて書くことができていない。文章の（**ウ**）よりも前の部分を含めたり、（**ウ**）以降の文章の一部分のみに着目したりして見出しを考えたものとも考えられる。

○　解答類型３について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

（例）
・（分ける箇所）**エ**、（見出し）「判じ絵」の歴史

このように解答した生徒は、「■『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた文章の後半のまとまりにふさわしい見出しを考えて書いているが、内容のまとまりで適切に分けることができていない。

３．学習指導に当たって

具体と抽象など情報と情報との関係について理解する

具体と抽象の関係を理解するためには、それぞれの言葉の意味を捉えた上で、具体と抽象が、状況や必要に応じて使い分けられていることを理解することが重要である。具体とは、物事などを明確な形や内容で示したものであり、抽象とは、いくつかの事物や表象に共通する要素を抜き出して示したものである。これらのことを踏まえ、例えば、具体は例示の際など、抽象は共通する要素をまとめる際などに使われていることを、身の回りの事例と結び付けながら捉えることができるように指導することが大切である。その際、第２学年〔知識及び技能〕の(1)「エ　抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。」や、第２学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「Ｂ書くこと」の(1)「イ　伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫すること。」などとの関連を図り、具体と抽象の意味や関係を、語句の意味や自分が伝えようとする情報と結び付けて考えることができるように指導することが有効である。

例えば、事実や調べたことを基に自分が考えたことを伝える文章を書く際に、段落相互の関係を具体と抽象の関係という観点で見直し、文章の構成や展開を検討したり、内容で分けた文章のまとまりに小見出しを付けたりする学習活動などが考えられる。

【コラム③】〔知識及び技能〕の位置付けの工夫
～「具体と抽象という概念」を理解する～

● 【コラム①】でも示したように、「(2)情報の扱い方に関する事項」の「情報と情報との関係」に示されている具体と抽象の関係は、第２学年と第３学年にわたって指導する内容です。具体的な事例を抽象化してまとめたり、抽象的な概念について具体的な事例で説明したりすることができるようにするためには、具体、抽象という言葉の意味を確認するだけではなく、身近な情報の中から具体と抽象の関係になっている事例を取り上げて、具体と抽象という概念を理解する場面を設けることが効果的です。

教 師

「具体」と「抽象」は、対義語の関係になっています。それぞれの言葉の意味を国語辞典で調べてみましょう。その上で、具体と抽象の関係が説明できそうなものを身近な情報の中から探して、その関係を説明してみましょう。

〔数学のノート〕

空間図形

正多面体

正四面体、正六面体（立方体）、
正八面体、正十二面体、正二十面体

例えば、空間図形には「正多面体」があります。「正多面体」の具体的な例として、「正四面体」や「正六面体」があります。

〔給食の献立表〕

9月の献立

日	主食	主菜	副菜	その他
4日（月）	ごはん	焼き魚（サバの塩焼き）	おひたし	すまし汁 牛乳
5日（火）	コッペパン	コロッケ	サラダ	豆スープ 牛乳

今日の主菜は、「焼き魚」です。「焼き魚」と「サバの塩焼き」を比べてみると、「焼き魚」は抽象的な表現で、「サバの塩焼き」は具体的な表現と言えるのではないでしょうか。

「焼き魚」と「主菜」を比べてみると、「焼き魚」が具体的な表現で、「主菜」が抽象的な表現と言えそうです。比べる対象によって、何が具体的で何が抽象的になるのかが変わりますね。

〔今年度の決意の言葉〕

最上級生である３年生になりました。私は、文武両道を目標に掲げ、中学校生活に悔いを残さぬよう、全力を尽くしたいと思います。

学習面では、家庭学習を充実させていきたいと思います。これまであまり家庭学習をしてこなかったので、隙間の時間を活用し、毎日30分であっても机に向かい、２年生までに学習したことを計画的に復習していきたいと思います。

また、部活動では、夏の大会が中学校生活最後の大会になります。最後まで自分とチームの力の向上を目指して練習に取り組みたいと思います。私はサッカー部に所属しています。これまで仲間とともに励まし合いながら練習に取り組んで

自分が書いた〔今年度の決意の言葉〕を見ると、１段落目の「文武両道」は抽象的な表現で、２段落目と３段落目で述べている、学習面も部活動も頑張りたいという部分は具体的な表現になっていると思います。自分の書いた文章の中にも、具体と抽象の関係がありました。

こうして見ると、詳しく伝えるのが具体的な表現で、簡潔にまとめて伝えるのが抽象的な表現とも言えそうですね。状況や必要に応じて、具体的な表現と抽象的な表現を使い分けたり、組み合わせて示したりすると、伝えたいことがうまく伝わると思います。

設問四

趣旨

自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第１学年〕　思考力、判断力、表現力等　B　書くこと

ウ　根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

《考えの形成、記述》

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率(%)	正答
3	四	（正答の条件） 次の条件を満たして解答している。 ①　AとBのいずれか一つの**〈候補〉**を選んで、その記号を塗り潰している。 ②　「**【図３】**は、」に適切に続くように書いている。 ③　選んだ**〈候補〉**について、解読の仕方を書いている。 （正答例） ・A （**【図３】**は、）真ん中が消えている桜が描かれている。「さくら」という言葉の真ん中の「く」を消して解読すると、食事で使う「皿」という意味になる。 ・B （**【図３】**は、）「砂」という漢字が逆さまに書かれているので、漢字の読み方も逆にすると、野菜の「ナス」という意味になる。			
		1	条件①、②、③を満たして解答しているもの	72.5	◎
		2	条件①、②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの	12.1	
		3	条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	0.0	
		99	上記以外の解答	5.3	
		0	無解答	10.1	

２．分析結果と課題

○　令和４年度【中学校】国語2三（正答率46.5%）において、「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと」に課題が見られた。これに関連して、本問でも、同様の趣旨で出題したところ、正答率は72.5%であった。今回の結果から、根拠を文章の中に記述する必要があることを理解して書くことについては、改善の状況が見られる。

（参考）

〇関連する問題

問題番号	問題の概要	正答率	解説資料	報告書
R4 2 三	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える	46.5%	pp.19-27	pp.30-41

（参照）

「令和４年度【中学校】報告書」pp.30-41

https://www.nier.go.jp/22chousakekkahoukoku/report/data/22mlang_04.pdf#page=12

○　解答類型２について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

（例）

・A

（**【図３】**は、）真ん中が消えている桜が描かれている。描かれているものを組み合わせて解読すると、「皿」という意味になる。

・B

（**【図３】**は、）「砂」という漢字が逆さに描かれているので、「ナス」という意味になる。

このように解答した生徒は、書いた説明の中に、選んだ「判じ絵」をどのように読み解くのかを示すことができていない。「判じ絵」の解読の面白さがより明確に伝わるようにするためには、根拠として**【図２】**とは異なる解読の仕方を文章の中に記述する必要があることを理解できていないものとも考えられる。

３．学習指導に当たって

自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く

レポートなど調べたことや考えたことを伝える文章を書く際には、伝えたいことが伝わる文章になるように、根拠を明確にすることが大切である。そのためには、まず、根拠が、考えや言動の拠り所となるものであることを理解する必要がある。その上で、自分の思いや考えを繰り返すだけではなく、根拠を文章の中に記述する必要があることを理解して書くことが重要である。その際、根拠として、複数の事例を示したり、専門的な立場からの知見を引用したりするなど、工夫して書くことができるよう指導することも大切である。

例えば、読み手に伝えたい自分の考えを明らかにした上で、複数の事例の中からどの事例を自分の考えを支える根拠として取り上げるのかを検討したり、根拠をどのように文章中に記述すると明確になるのかを吟味したりする学習活動が考えられる。具体的な授業のアイディアの一例を次に示す。

授業アイディア例　自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く

【本アイディア例と関連する問題及び学習指導要領における内容】

設問四　正答率　72.5％

〔第１学年〕　思考力、判断力、表現力等　B

ウ　根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

教　材

● 令和５年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語3（改変）

※　本アイディア例では、調査問題の**【下書きの一部】**の「３．調査結果」に、（１）から（３）の見出しを付けたものを用いている。

学習の流れ

❶　学習の見通しをもつ。

教師

レポートなどを書くときには、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することが大切です。今日は〔作成中のレポートの例〕の一部分を書くことを通して、具体例をどのように示すと自分の考えが伝わる文章になるのかを考えてみましょう。

❷　〔作成中のレポートの例〕を読む。

〔作成中のレポートの例〕

「判（はん）じ絵」について

山田光一

１．はじめに

学校図書館の本で、「判じ絵」というものがあることを知った。「判じ絵」には具体的にどのようなものがあるのか、また、「判じ絵」がいつ生まれ、どのように現代に伝わったのかに興味をもったため、詳しく調べることにした。

２．調査方法

学校図書館、地域の図書館、インターネットで情報を集めた。

３．調査結果

（１）「判じ絵」とは何か

【図１】ザル

「判じ絵」とは、描かれている絵や記号などが何を意味しているかを解読して楽しむものである。ただし、**【図１】**のように、描かれているものと意味しているものとが異なるため、解読する際には、「判じる」こと、つまり、知っていることをもとに「推し量って考える」ことが必要になる。言ってみれば、なぞなぞやクイズのようなものなのである。

（２）「判じ絵」の歴史

「判じ絵」の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」だと考えられていることが分かった。そして、江戸時代に庶民の間に広まる中で様々なものが生まれ、浮世絵（うきよえ）ともつながりの深い文化として定着していったという。さらに明治に時代が移っても、人々の娯楽として親しまれ、現代でも雑誌の挿絵（さしえ）やテレビのクイズ番組などで見ることができる。

（３）「判じ絵」の面白さ

４．まとめ

〈出典・参考文献〉

・　たばこと塩の博物館編『江戸の判じ絵～再びこれを判じてごろうじろ～』（2012年９月　たばこと塩の博物館）、練馬区立石神井公園ふるさと文化館編『なぞなぞ？ことばあそび！！－江戸の判じ絵と練馬の地口絵－』（2016年１月　練馬区立石神井公園ふるさと文化館）

❸　「３．調査結果」の「（３）『判じ絵』の面白さ」の部分で伝えたい面白さと、取り上げる具体例を各自で考え、グループで交流する。

レポートの「３．調査結果」の（３）に「判じ絵の面白さ」を書き加えます。あなたなら、「判じ絵」のどのような面白さを伝えますか。また、その面白さを伝えるために、どの「判じ絵」を具体例として取り上げますか。

〔取り上げる「判じ絵」の例〕

ザル

スズメ

ナス

皿

カマキリ

〔交流している場面の例〕

私は、「判じ絵」の絵そのものが面白いと思います。「カマキリ」は、人が釜を刀で切る様子が描かれています。現実にはしないことを真剣にしている様子が面白いと思います。「スズメ」も、目を描くことで、鈴が生き物みたいに見えて面白く感じます。

「判じ絵」は、解読の仕方が面白いと思います。「スズメ」は、絵もユニークですが、「鈴」に「目」が付いていて、二つの言葉を足して「スズメ」という意味になっているのが、とても面白いと思います。同じ「判じ絵」を取り上げても、伝えたい面白さが異なると、説明する内容が変わりますね。

私も、解読の仕方が面白いと思います。取り上げる具体例は、「皿」にしようと思います。描かれている絵が、真ん中が消えている桜だと分かると、「さくら」の真ん中の字を消すという解読の仕方に気付くというのが面白いと思います。

なるほど。足して解読するものと、引いて解読するものがあるのですね。具体例を複数示して、解読の仕方が一つではないことを伝えると、「解読の仕方が面白い」ということが、より伝わりそうですね。

「３．調査結果」の「（３）『判じ絵』の面白さ」に、具体例を取り上げながら「判じ絵」の面白さを説明する文章を書きましょう。

❹　「３．調査結果」の「（３）『判じ絵』の面白さ」の部分を書く。

❺　書いたものを読み合い、交流する。

具体例を示すことで、考えがよく伝わる文章になっているでしょうか。書いた文章を読み合って、よい点や修正した方がよい点について交流しましょう。

〔生徒が書いたレポートの一部の例①〕

（３）「判じ絵」の面白さ

「判じ絵」の面白さは、ずばり、絵そのものだと思う。

【図２】は、「カマキリ」を意味する「判じ絵」だ。人が刀で釜を真っ二つに切る様子が描かれている。

【図２】カマキリ

「判じ絵」は絵そのものが面白いという考えと、取り上げた「判じ絵」が何を描いたものなのかは分かりました。加えて、なぜ【図２】が面白いと言えるのかを言葉で説明する必要があると思います。そうすれば、根拠が明確になって、「判じ絵」は絵が面白いという考えがより伝わると思います。

〔生徒が書いたレポートの一部の例②〕

（３）「判じ絵」の面白さ

「判じ絵」は、解読の仕方が面白いと考える。二つの具体例を取り上げて説明する。

【図２】は鈴の絵に目が描かれている。描かれている「スズ」と「メ」を組み合わせて、「スズメ」という意味になる。

【図３】は「砂」という漢字が逆さまに書かれている。絵を解読するのではなく、文字を解読する場合もあるのだ。

このように、解読の仕方が一通りではないところが、「判じ絵」の面白さなのである。

【図２】スズメ

【図３】ナス

具体例が二つ示されていてよいですね。ただ、【図３】の説明を読んでも、どのように解読するのかが分からないので、「解読の仕方が面白い」という考えの根拠にはなっていないと思います。【図３】の解読の仕方を説明するか、解読の仕方に特徴がある別の「判じ絵」を取り上げれば、「解読の仕方が面白い」という考えがよく伝わると思います。

❻　学習を振り返る。

自分の考えを分かりやすく伝える文章にするために、考えを支える根拠として具体例などを示すとき、どのような点に気を付けるとよいでしょうか。文章を書いたり友達と交流したりして気付いたことを振り返ってみましょう。

〔生徒の発言をまとめた板書の例〕

ポイント

◎自分の考えが伝わる文章にするために
具体例を示す際の留意点

①　伝えたい自分の考えを明らかにする
・　題材について考えたことを書き出してみる。
・　考えたことの中から伝えたいことを精選する。

②　考えを支える根拠となる具体例を選ぶ
・　考えとのつながりが明確な具体例を選ぶ。
・　示す具体例の数や順番を検討する。

③　文章の中に自分の考えと根拠を書く
・　自分の考えと、考えを支える具体例を書く。
・　示した具体例から、なぜその考えが導き出せるのかが分かるように説明を書く。

【活用する際のポイント】

○　レポートなど、調べたことや事実を基に考えたことを書く単元の前半に❶～❻の活動を行うことで、「自分の考えが伝わる文章にするために具体例を示す際の留意点」の①から③を、自分の表現に生かせるようにすることが効果的である。また、互いの文章を読み合ったり、自分が書いた文章を振り返ったりする際にも、③ができているかどうかを観点とするとよい。

○　第２学年で、「Ｂ書くこと」の(1)ウの指導事項について指導する場合には、文章の説得力を増すために❸で根拠の適切さを検討する視点をもたせたり、❹、❺でどのような説明や具体例を書き加えると根拠の記述が具体的になるかを考えたりする場面を設定することなどが考えられる。

※出典等

【下書きの一部】は、岩崎均史『江戸の判じ絵　これを判じてごろうじろ』(2004年１月小学館)、小野恭靖『ことば遊びへの招待』(2008年10月　新典社)、練馬区立石神井公園ふるさと文化館編『なぞなぞ？ことばあそび！！－江戸の判じ絵と練馬の地口絵－』(2016年１月練馬区立石神井公園ふるさと文化館）などを参考にした。

【下書きの一部】と**〈候補〉、〔取り上げる「判じ絵」の例〕**にある判じ絵は、たばこと塩の博物館編『江戸の判じ絵～再びこれを判じてごろうじろ～』(2012年９月　たばこと塩の博物館）による。